ワクチンの任意接種は原則として全額自己負担のため、一部の自治体では独自の助成制度が有り、価格は医療機関によって異なる。NPO 法人「VPD（ワクチンで病気を防げる病気）を知って、子どもを守ろうの会」理事長で医師、菅谷明則さんは「子どもだけでなく、大人もワクチンを接種することで病気を防げるということが、まだ十分に認識されていない」と指摘する。シニア世代では子どもの頃に接種していないワクチンがあったり、加齢と共に効果が弱まったりしていることもある。例えば破傷風は１９６７年以前は定期接種でなかったことから接種しておらず、抗体がないシニアも少なくない。

国立感染症研究所によると、近年は年間１００件程度発症し、死者も出ている。このほか、日本脳炎も高齢者を中心に未接種者が一定数以上いるとみられる。百日咳も、加齢による免疫力低下によってかかりやすくなるため、予防接種を検討したい。

新型コロナワクチンを接種した後、それ以外のワクチンを接種するためには２週間は開ける必要があるので注意したい。体調不良の時の接種は避け、接種後は激しい運動は避けるようにする。菅谷さんは「生活環境などによって、予防接種の必要性に差はあるが、健康に過ごすための一つの手段と考えて検討して欲しい」と話している。

勝浦朝市、４３０年目の新展開

安土桃山時代の天正１９（１５１９）年に始まり、今年、４３０年を迎えた勝浦朝市で、新しい取り組みが始まる。現地を訪れなくても、朝市の会場から生中継される配信をスマートフォンやパソコンで見て、販売中の食材を注文できる「ライブコマース」だ。

毎月第２・４土曜日に行う。伝統的な朝市と最先端の販売手法との組み合わせが新たな“市場”を生み出し定着させられるかが注目されている。

「朝市買い物代行サービス　ＯＮＬＩＶＥ！」として、まる鮮（埼玉県朝霞市）が午前８時から９時半頃まで行う。同社代表の小野祐介さん（３５）やスタッフがライブ配信で、現地で出店者に話を聞きながら、朝市で販売されている魚介類や野菜、果物などを紹介。

１日当たり１０～１５店、１店当たり１～３の商品が対象となる。利用者は配信を見ながらリアルタイムで注文できる仕組みで、商品は翌日、クール便で自宅に届く。注文できる地域は、中国地方を除く本州に限られる。

勝浦朝市は、石川県の輪島、岐阜県の宮川と並ぶ「日本３大朝市」の一つといわれるが、出店者はピーク時と比べると大きく減少している。平成３０年には「かつうら朝市の会」が発足。これまで朝市を運営してきた出店者と地元自治会に加え、勝浦市や市商工会、市観光協会も参加し、新体制で活性化を目指してきた経緯がある。かつうら朝市の会、会長の江澤修さん（７１）は「今までになかった画期的な企画で、勝浦や朝市の良さを広く知ってもらえる機会になると思う」と期待を寄せる。

ライブ配信の視聴ページにつながる同社のホームページは、https://marusenllc.com

雨天時は翌週の土曜に延期することがあり、ホームページで告知する。ライブ配信での注文には、商品代金のほかに、買い物代行手数料（クール便送料込み）がかかる。「鮮魚まるのまま１０尾まで」が２９８０円など。